



Client |

株式会社荒谷建設コンサルタント

Theme |

里山に人流を生み出すことで
自然環境を保持する施策の検討

Outline |

里山は、集落、耕作地、周囲の森林・河川で構成され、人が干渉することで形成された二次的な自然が魅力。土木施設の調査・設計で培った技術と環境保全技術を活かし、里山に人流を生み出しながら自然環境を保持する施策を検討しました。



学生との併走で得た
イベントアイデアと
思考過程が大きな成果

自然環境に絡めたまちおこしを実施したいと考えていたタイミングで共創プロジェクトのお話をいただき、学生の若い力とアイデアが新たな風を吹き込むことへの期待から始まりました。安芸太田町を舞台に設定し、行政も巻き込んで新規事業やイベントを検討。また、社員の意識変革を図ることも目的の一つでした。

— Client —

— Student —

互いの強みを活かして
里山を知る新たな
イベントを企画



地域活性に興味があり、参加しました。特に比治山での自然観察会は印象深く、企業が行う環境調査の技法を体験できる貴重な機会でした。
企業のみなさんは里山の環境保全に関するどんな質問にも即答で返してくれ、自然環境への強い熱意を感じました。私たちの「課題解決」という強みと、企業の「環境保護の知見」という強みがうまく噛み合いたくさんのアイデアが湧いて充実した議論ができましたね。

私は、安芸太田町でのイベントを検討するために、学内で行ったアンケート調査が印象的でした。「自然に関わる有料イベントに参加したいか」「どんな内容なら参加したいか」という問いに対して、「自分で育てたお米を食べてみたい」という回答が多く、その結果をなるべく取り入れられるよう工夫しました。

よくある田植え体験では、田植えから実食まではどうしても長い時間が必要です。しかし、精米・脱穀を体験した後にそのお米を食べる1日体験も「お米づくり」の一つであると考えました。実際、私たちもこのテーマに取り組みまでお米の「もみ」がら「ぬか」がどんなものか詳しく知らなかったため、体験でこうした知識に触れることで自然への興味を促すことができると思っています。企業の方からも「その視点はなかった」とフィードバックをいただきました。

プロジェクト中盤では、安芸太田町に対して検討過程を報告。普段は検討の「結果」を重視してきたというみなさんにとって、「過程」の報告が新鮮だったようで、「過程」の報告が新鮮だったようで、喜んでいただけました。

提案したイベントは、今年中に安芸太田町で実施される予定です。まちおこしに繋がる効果が生まれ、コンサルタントに開催されるイベントになることを期待しています。

学生の持つ視点や行動力については、斬新な発想力や主体性が特に印象的でした。とある会議で紹介した地域の飲食店について、次の会議の時には「さっそくお店にヒアリングに行ってきました」と報告があった時は本当に驚きましたね。
今後は、このプロジェクトをモデルケースとして他地域への展開や継続的な地域貢献を目指していきます。また、新しい分野の開拓を検討する企業にも共創プロジェクトを薦めたいです。